

特集 ResorTech Okinawa 2020 に出展しました

その仕事は 沖縄で

Telework & Stay in Okinawa



当日のブースの様子

「ワーケーションとは何か？」

コロナ禍の中での開催となりましたが、展示会場には、途切れることなく多くの方に立ち寄っていただき、その数は4日間で約1,000人となりました。この関心の高さは、「テレワークとは何か?」、「中でも「ワーケーションとは何か?」を深く知りたい人が大勢いることを感じさせる結果でした。

令和2年10月29日（木）～11月1日（日）までの4日間、沖縄コンベンションセンターで、ResorTech Okinawa おきなわ国際見本市2020が開催されました。内閣府沖縄総合事務局では、「その仕事は沖縄で～最新テレワーク・ワーケーションを～紹介～」として、ブース展示とオンラインセミナーでの発表を行いました。

一方で、ワーケーションを経験した人はまだ少なく、イメージが先行している状態が伺え、「ワークとバケーションを同時にやること」という誤解が大きいのが現状です。沖縄で例えると、「ビーチにパソコンを持って行き、オンライン会議をする」という誤解です。実際のワーケーションスタイルは、「目的が旅行なのか」「目的が仕事なのか」によって、やり方は全く異なります。メインが何かによって、実は多様なワーケーションスタイルが存在し、求められる施設の機能、立地、提供コンテンツも異なるのです。

そこで、二つの多様性と、それに応える施設が沖縄県内には約40か所もあることを知つてもらおうと、ブース内では、好きなワーケーションタイプの人気投票や、テレワーク施設と会場をつなぐオンライン交流等を実施しました。これにより、沖縄でのワーケーションスタイルに、理解を深めていた

人気投票では、「ビーチはすぐ近くに囲まれ。」という観光・レジャーを目的としたワーケーションが1番人気で、『離島の古民家。山原の商店街。』という地域・交流を目的としたワーケーションが2番人気でした。レジャーイメージが強い中で、「地域の人と交流してみたい」という声は予想以上に多く、仕事をしながら暮らすように過ごすことで、観光とは違った沖縄体験への期待が感じられる結果となりました。

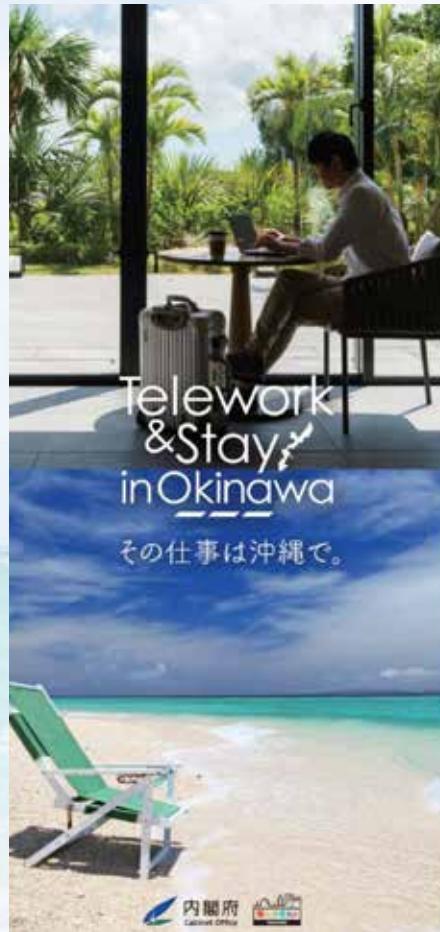
※ 2020年度中の完成予定施設を含みます。



オンラインセミナーの様子

在宅ワークの普及によって、遠隔地・オンラインでのコミュニケーションが当たり前になった人が急増しています。そうしたワーカーたちは、会社に行かないと業務が止まってしまう、ということはなくなりました。これまで、平均3泊4日と言っていた沖縄旅行ですが、オンラインで業務対応ができる、それ以上の長期滞在が可能になり、より休暇を満喫できるようになります。

個人も企業も、ニューノーマルを求めて



「その仕事は沖縄で」リーフレット

こうした取組が良いのは、企業側だけでなく、地域側にもメリットが大きい点が挙げられます。地方の課題となっている「人材確保」について、こうしたサテライト利用を通じて、都会



ワーケーションタイプの人気投票

これが、旅行を目的としたワーケーションです。

一方で、テレワークが定着し、地方のサテライトオフィスに新しい可能性を見出そうとしている企業もいます。環境を変えることによるリフレッシュ効果だけでなく、人材育成の場、採用戦略、イノベーションの拠点と、企業価値や競争力の向上につなげる活用を検討している事例もあります。

具体的には、越境学習やハッカソンを地方で行うケースがあります。例えば、地域の課題を、自社の技術を使い、どう解決するかを考えるプログラムなどです。



県内のテレワーク施設

の人材やノウハウを、地方がシェアリングすることができます。このように、仕事を目的としたワーケーションをきっかけに、関係人口づくりに発展させる事が期待されます。キーワードは、「地域・交流」です。心が高いワーケーションではあります

が、その可能性について、十分に知られているとは言い難いのが現状です。ワーケーションは、リフレッシュ効果や観光消費にとどまらない、都会と地域をつなげるハブの役割として、大きな可能性を秘めています。都会で働く多くのワーカー、企業にチャレンジしてもらい、地域との新しい関係を構築していただきたいと考えております。

※ハッカソンとは、ハック (Hack)とマラソン (Marathon)を掛け合わせた造語です。ハングリーなじが一定期間集中的にプログラム開発やサービスの考案等の共同作業を行い、その技能やアイデアを競う催しのことを指します。



テレワークポータルサイト

お問合せ先
経済産業部 商務通商課
098-866-1731